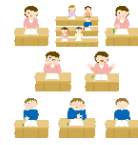


1 年生進路講演会

演題 『なぜ学ぶのか、学ぶ楽しさ』について

佛教大学教育学部

教授 原清治先生



H30.10.25 (6,7時限)

恒例となっている佛教大学教授、原清治先生の進路講演会は、今年で6年目になりました。多治見高校1年生に是非伝えたいという強いメッセージをユーモアも交えて講演していただき、あっという間の100分間でした。

生徒の感想と当日の様子です。



講演の様子

じっとしていない原先生！

生徒の感想



・原先生の講演の内容の中で、先生のように深くは無いけれども、私もずっと考えていたことについて話をされていました。私たちが生活する中で、他者と関わろうとする時はそれなりの意識を持って、相手にその気持ちを伝えようと努力します。でも、そうでない時は他者なんてどうでもいい、と相手がどういう気持ちになるかなど考えず行動します。私も完璧に相手の気持ちを傷付けないように行動できるかは分かりません。でも、私はこの事に気をつけて行動しています。私が言えることでは全くないけれども、今を生きる人たちを見ていて、少し失望していた中で、原先生の話聞いて感動しました。私もそう思う、と。これからは、そういう当たり前のよう出来ていない点を見直し、アクティブラーニングについてもよく考えながら生活していきたいと思います。



・今回の講演では大学のことや進路のことだけでなく日常生活の仕方や生き方、人との接し方についても考えさせられる講演でした。講演の中で“人とのつながりを考える”という言葉があって、この言葉には色々な意味があるなと思いました。例えば、周りの人に感謝すること、1つ1つの行動は相手を思いやってすること、自分の事だけを考えない事など、これからの日常生活にも活かせることがたくさんありました。私たちの大学入試はこのような、その人間の質、考え方、相手を大切にする心などが見られると思いました。そのために私はこれからの日常生活で自分の中身の質をもっと高めて人とのつながりを大切にしようと思います。

・今回のお話を聞いて、アクティブラーニングの本質がよく分かりました。ただ意見を言うだけではなく、交流し、質問してこそより自分の考えが深まり、自分の考えを表現する力が身に付くということがよく分かりました。私は先生に質問された時や自分が前に出て意見を求められた時、自ら発見することができませんでした。まだ自分には消極的なところが多いと痛感したので、今後授業を利用して積極性を高めていけるようにしたいと思います。よりクラスメイトと関わりやすい雰囲気作りができるように自分から動いていけるようにしたいです。

・今回の講演は何か引き込まれるものがありました。結果論ではなく、「～だから必然的に～になる」といった根拠があり、あっという間の100分でした。僕たちの学年から特に必要になるのはソーシャルスキル。学力だけでなく、社会に対応できる力、人間性も重視されるということです。学力があっても社会にできる力がなければ不合格になるという試験に変わるのです。自分がこうすれば良いのではなく自分がこうすれば相手にはこう見えているということを意識して進路を考えたいと思いました。

・今回の講演会を聞き、初めて知ったこと、気付かされたことが多くありました。まず、私たちの代から大学入試が大きく変わることは知っていましたが「人間性」が求められると分かりました。高校で先生から教わる「学力」は当然必要です。でも、私たちは機械ができる事だけをやってはいけないことを知りました。人を思いやり、ちょっとした行動を日常生活の中で増やしていけば、意識せずとも面接などに表れて大学はもちろんその先の人生でも役立つと思いました。少しずつでも「人間性・協調性」を身につけていきたいです。